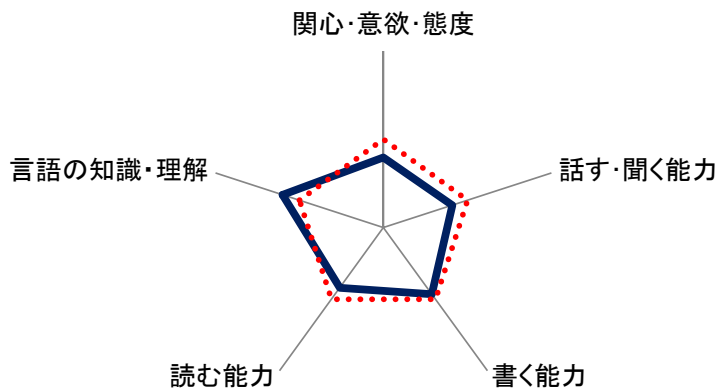


○ 教科に関する調査 (全国の平均正答率との差)

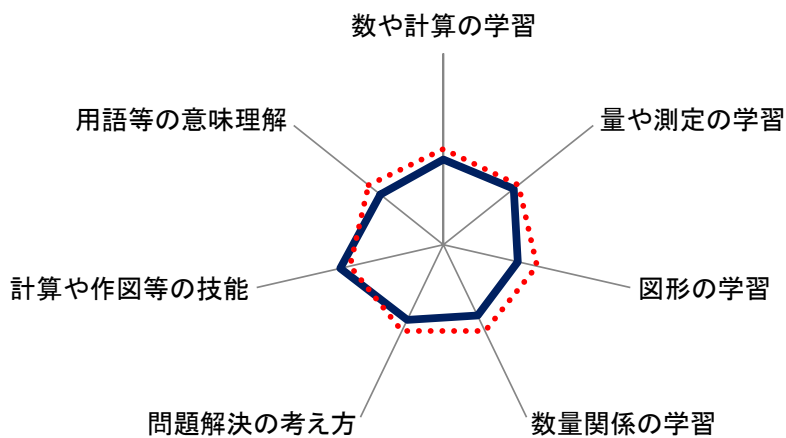
※ グラフはA問題とB問題の平均で表示

【国語】

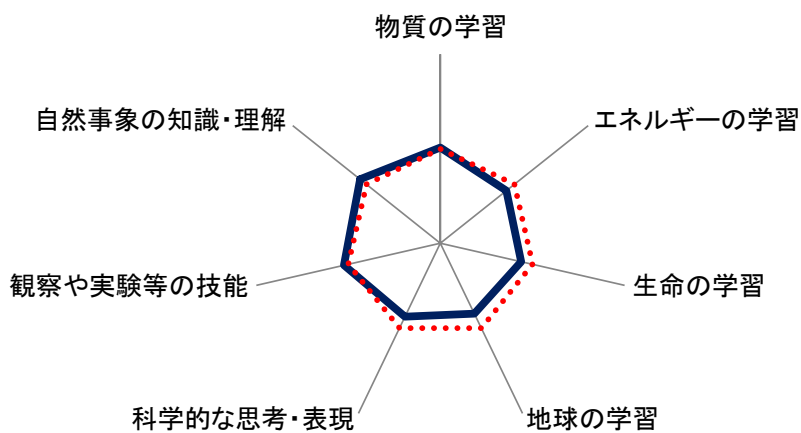
— 市平均  
..... 全国平均



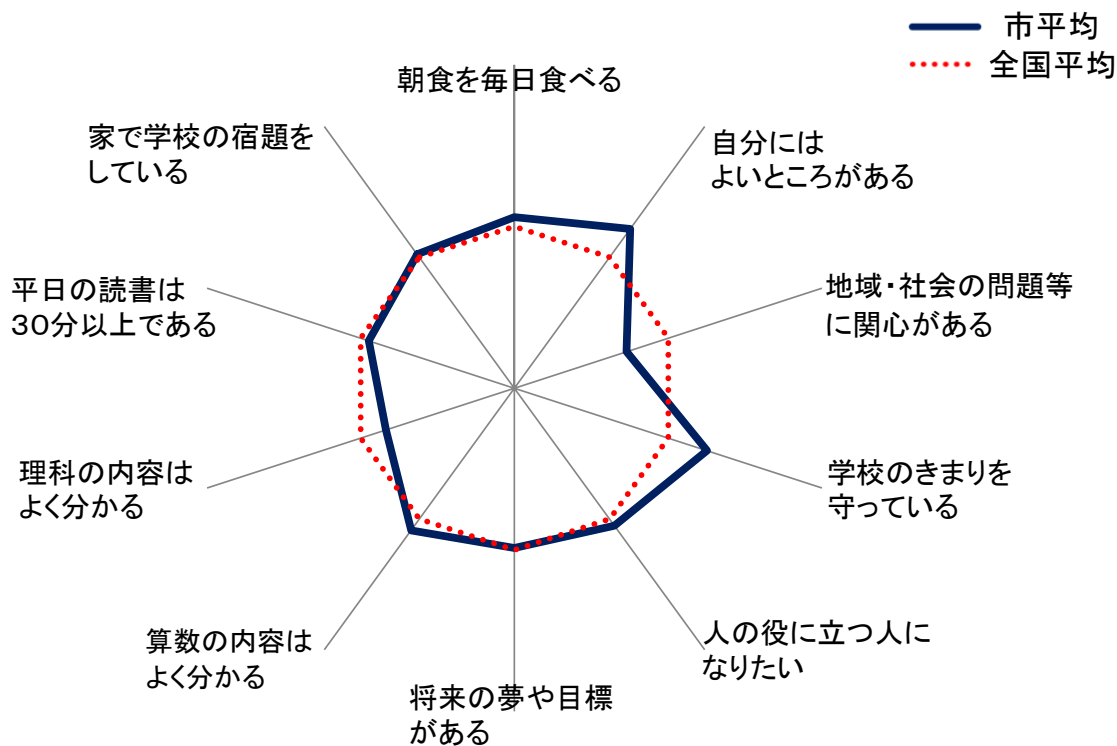
【算数】



【理科】



○ 児童質問紙調査 (全国の平均回答率との差: 肯定的な回答)



○ 結果の分析と改善策

教科に関する調査では、国語の「言語の知識・理解」、算数の「計算や作図等の技能」、理科の「自然事象の知識・理解」、「観察や実験等の技能」、「物質の学習」の各項目で全国平均とほぼ同じか上回っている。今後は、児童一人一人の課題を詳細に分析するとともに、学習形態を工夫したり、考える過程を大切にした授業展開を工夫したりするなどの授業改善に努めるなど、基礎と応用のバランスの取れた学力の育成を図る取組の推進が望まれる。

児童質問紙調査では、取り上げている多くの項目で、肯定的な回答が全国平均とほぼ同じか上回っている。「自分にはよいところがある」の項目が全国平均を大きく上回っているものの、同じ自尊感情の項目である「将来の夢や目標がある」の項目が全国平均とほぼ同じであったり、「地域・社会の問題等に関心がある」や「理科の内容はよく分かる」の各項目が全国平均を大きく下回っている。中学校に比べ、規範意識、基本的な生活習慣に関する意識も低い傾向にあるので、学校と家庭、地域の連携を密にするとともに、小中における連携した取組を一層深め、進んで自分の生活をよりよくしていこうとする児童を育成することが望まれる。